OUKA
The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	ニョレ語のテンス・アスペクト
Author(s)	宮﨑, 久美子
Citation	スワヒリ＆アフリカ研究. 2015, 26, p. 138-156
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/72974
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

ニョレ語のテンス・アスペクト

宮﨑　久美子

0. はじめに

本稿では、ニョレ語のテンス・アスペクトについて論じる。ニョレ語はウガンダ東部のトロロ県ブタレジャ郡を中心に話されているバンツー系言語でGuthrieの分類ではE33と分類されている。SILが2002年のセンサスをもとに示したデータではニョレ語の話者数は341,000人となっている。本稿で用いるニョレ語のデータは、著者がトロロ県ブタレジャ郡のナムロ村で行った調査で得たものである[1]。ニョレ語のテンス・アスペクトを取り扱った先行研究としてはWandela(2004), Douglas(2006)があるが、本稿ではナムロ村及びその周辺で話されているニョレ語のテンス・アスペクト形式について論じていく。

1. ニョレ語動詞の概要

1.1 動詞の構造

ニョレ語の動詞の構造は(1)のとおりである。下線部のものは必須要素である。

(1) 前接辞－主語接辞－否定辞－時制接辞－目的語接辞－語根－派生辞－語尾－後語尾

前接辞には否定辞 si-, 従属節を導く ni-, そして関係辞がある。否定辞-si は直接法の否定文で用いられる。前接辞 ni-は動詞の先頭におかれ従属節をつくる。

[1]調査は2004年8月～9月, 2005年8月, 2006年2月に行った。これらの調査は平成16年度文部科学省研究費補助金　基盤研究A(2)「アジア・アフリカにおける多言語状況と生活文化の動態」（研究課題番号：13301027, 研究代表者：梶　茂樹）および平成17年度日本科学協会笹川科学研究助成の援助を受けている。

(2) a. sí-hu-á-gul-a eŋómbé[2].

NEG-1PL- P$_2$−買う-BF 牛[3]

「私たちは牛を買わなかった。」

b. sí-mu-ba-ile ní-mu-li hú-sóm-á.

NEG-2SG- COP-PF ni-2PL-COP INF-勉強する- BF

「あなたたちは勉強していなかった。」

c. ómupálisó ómu-hanuhí.

マットレス(3) REL3-破れる

「破れたマットレス。」

主語接辞の直後に位置する否定辞 ta-は否定の命令文や関係節で用いられる。

(3)a. ó-ta-gówol-a nindi.

2SG-NEG-戻る-BF 再び

「二度と戻ってくるな。」

b. ábaséelé ába-ta-emb-a.

男の子たち(2) REL2-NEG-歌う-BF

「歌っていない男の子たち」

表 1 は名詞クラス番号[4]と主語接辞、目的語接辞の一覧である。ニョレ語の名詞は、他のバントゥ諸語にもみられるように名詞がクラスに分かれている。ニョレ語には 22 の名詞クラスがあり、この名詞クラスがニョレ語文法の基盤となっている。動詞の構

[2]本論文における音素と音声表記は以下のとおりである。[ ]内に実際の音声を示す。(p)[p], (b)[b], t[t], d[d], k[k], g[g], m[m], n[n], ny[ɲ],ŋ[ŋ], b[ß], f[f], (v)[v], s[s], z[z], h[x~h], ch[ʧ], j[ʤ], l[l~r], w[w], y[j], i,e,a,o,u. 母音は 5 母音体系で、それぞれ長短の対立がある。長母音は母音を連続し ii,ee,aa,oo,uu と表す。また、本稿で示すデータは音韻規則などが適用される前の形で示し、形態素をハイフンで区切って示す。例えば 2(a)の例文は音韻規則が適用された形は síhwágule ŋómbé と実現される。

[3]本稿で用いる略号は以下のとおり。(1)1 クラス名詞, 1SG, 1PL 1 人称単数・複数, 2SG, 2PL 2 人称単数・複数, 3SG, 3PL 3 人称単数・複数, BF 基本形語尾, COP コピュラ, F_1 近未来, F_2 中未来, F_3 遠未来, INF 不定形, NEG 否定辞, P_1 近過去, P_2 遠過去, PF 完了語尾, PERS 継続, PreSM 前接辞, PROG 進行, R 語根, REL 関係接辞, SBJF 接続形語尾, SM 主語接辞

[4] バントゥ諸語では比較研究のためにバントゥ祖語を基にして各名詞クラスに一定の番号が付けられている。本稿でもそれらのクラス番号を使用している。

成要素である主語接辞、目的語接辞は、それぞれ主語名詞、目的語名詞のクラスに呼応する。主語名詞や目的語名詞が文中に現れない場合は、これらの接辞は代名詞として機能する。また、名詞修飾語には非修飾名詞が属するクラスに呼応する接辞が付く。

3 人称単数の主語接辞については a-, ga-の 2 つが使い分けられる。時制接辞 a-, á-の前では主語接辞 ga-が表れ、それ以外の時制接辞の前では主語接辞 a-が表れる。目的語接辞は、目的語名詞が表れる場合には付かない。また動詞によっては 2 つの目的語接辞をとることができる。2 つの目的語接辞の語順は厳密で「直接目的語」、「間接目的語」の順に動詞の前におかれる。なお、再帰辞が目的語接辞として用いられる場合、クラス、人称、数に関係なく、再帰辞 e-が動詞の直前に付く。

表 1 ニョレ語の主語接辞・目的語接辞

人称/ 名詞クラス	名詞クラス 接頭辞	主語接辞	目的語接辞
1SG		n-	n-
1PL		hu-	tu-
2SG		o-	hu-
2PL		mu-	ba-
3SG		a-/ga-	mu-
3PL		ba-	ba-
1	omu-	a-/ga-	mu-
2	aba-	ba-	ba-
3	omu-	gu-	gu-
4	emi-	ji-	ji-
5	e-	li-	li-
6	ama-	ga-	ga-
7	ehi-	hi-	hi-
8	ebi-	bi-	bi-
9	e(N)-	i-	i-
10	e(N)-	ji-	ji-
11	olu-	lu-	lu-
12	aha-	ha-	ha-
13	otu-	tu-	tu-
14	obu-	bu-	bu-
15	ohu-	hu-	hu-
16	ŋa-	ŋa-	ŋa-
17	hu-	hu-	hu-
18	mu-	mu-	mu-
20	ogu-	gu-	gu-
22	aga-	ga-	ga-

1.2 テンス・アスペクトの決定要素

動詞の構成要素のうち時制接辞、語尾、後語尾はテンス・アスペクトの決定要素となる。

1.2.1 時制接辞

ニョレ語の時制接辞は表 2 に挙げるとおりである。表 3 の語尾と共起してテンス・アスペクトを決定する。

表 2 ニョレ語の時制接辞

形態	呼称
á-	遠過去
a-	近過去
ø–	現在
na-	近未来
naha-	中未来
li-	遠未来
hi-	継続

1.2.2 語尾

時制接辞と共起してテンス・アスペクトを決定する語尾には基本語尾、接続語尾、完了語尾がある。表 3 に語尾を挙げる。

表 3　ニョレ語の語尾

形態	呼称
-a	基本語尾
-e	接続形語尾
-ile	完了語尾

1.2.3 後語尾

時制接辞、語尾と共にテンス・アスペクトを決定する後語尾には-nga がある。-nga は動作が進行中であることを表す。他のバンツー諸語では、この-nga に当たるものとして形態素-anga がある。-anga は「-ang +基本語尾-a」と分析されたり、-anga そのものが語尾ととらえられる。ニョレ語の場合、-nga が完了語尾-ile に後続して共起することからも-nga を語尾-a に後続する 後語尾-nga と分析する。

2. ニョレ語のテンス・アスペクト

ニョレ語の時制は大きく分けて過去、現在、未来があり、過去と未来についてはそれぞれがさらに細かく区別される。なかでも過去は「遠過去」、「昨日以前の過去」、「昨日の過去」、「当日過去」の 4 つ、未来は「近未来」「中未来」「遠未来」と 3 つに分類され、「現在」を合わされると 8 つのテンスに分類される。遠過去は発話の前日以前を指し、大昔におこったことや時間が特定されない過去を扱う。近過去は発話前日を指す。現在時制は無標で発話当日、発話がされている時点を指す。また、時間を明確する必要がない場合に現在時制が用いられる。文脈などから時間を特定する必要がない場合にも現在時制が用いられ、たとえば、物語やことわざなどにおいても現在時制が用いられる。近未来は発話当日中、中未来は発話の翌日以降を表す。遠未来は翌日以降の未来で特に特定されない未来を表す[5]。継続は過去のある時点から発話時まで、あるいは発話時から未来のある時点までの一定期間を表す。アスペクトは主に「習慣」、「継続」、「進行」、「完了」が挙げられる。

ニョレ語のテンス・アスペクトの形式には 1 つの動詞からなる単純形式と 2 つ以上の動詞からなる複合形式がある。以下では、それぞれの形式について例文を挙げながらみていく。

2.1 単純形式

単純形式では 1 つの動詞でテンスとアスペクトが表わされる。「遠過去」、「昨日以前の過去」、「昨日の過去」、「当日過去」、「現在」、「近未来」、「遠未来」の 7 つがある。アスペクトは「進行」、「習慣」、「継続」がある。表 4 は、テンス・アスペクト体系の

[5] 遠未来のデータは十分に収集できていない。複合形式の一部についてのみ遠未来時制接辞を用いたデータがある。

単純形式を示したものである。以下では、それぞれの形式について例を挙げながらみていく。

表 4 単純形式のテンス・アスペクト体系

テンス・アスペクト	S 辞	TA 辞	語根	語尾	後語尾
遠過去	S-	á-	R	-a	
昨日以前過去	S-	á-	R	-ile	
昨日過去	S-	a-	R	-ile	
当日過去	S-	ø-	R	-ile	
現在	S-	ø-	R	-a	
近未来	S-	na-	R	-e	
中未来	S-	naha-	R	-e	
現在継続	S-	hi-	R	-a	
遠過去習慣	S-	á-	R	-a	-nga
昨日以前過去進行形	S-	á-	R	-ile	-nga
昨日過去進行形	S-	a-	R	-ile	-nga
当日過去進行形	S-	ø-	R	-ile	-nga
近未来進行形	S-	na-	R	-e	-nga
遠未来進行形	S-	naha-	R	-e	-nga

2.1.1 遠過去

遠過去は大昔に起こったことやいつ起こったことかわからないことなど、発話以前に起こったことで時間が特定されない場合に用いられる。遠過去の時制接辞 á-と基本語尾-a の組み合わせで表される。

(4) hu-á-gul-a eŋómbé.
1PL- P_2−買う-F 牛
「私たちは牛を買った。」

2.1.2 昨日以前過去

発話の 2 日前以前に起こったことを表す。遠過去の時制接辞 á-と完了語尾-ile の組み合わせで表される。

(5) ejuúsi　　hu-á-gul-ile　　eŋómbé.
おととい　1PL- P_1-買う-PF　牛
「おととい私たちは牛を買った。」

2.1.3 昨日の過去

発話前日に起こったことを表す。近過去の時制接辞-a と完了語尾-ile の組み合わせで表される。2.1.2 でみた昨日以前の過去と昨日過去の違いは時制接辞-a の声調の高低でのみ表される。

(6) ejó　hu-a-gúl-ile　　eŋómbé.
昨日　1PL- P_1-買う- PF　牛
「昨日私たちは牛を買った。」

2.1.4 当日過去

発話当日に起こったことを表す。現在時制接辞 ø-と完了語尾-ile を組み合わせで表される。

(7) mú-mugamba　hu- ø -gul-ile　　eŋómbé.
(18)-朝　　1PL-ø-買う- PF　牛
「今朝私たちは牛を買った。」

2.1.5 現在

現在行われている動作や習慣、繰り返し行われている動作を表す。また、周知の事実を表す場合などもこの形式がとられる。現在時制接辞 ø-と基本語尾-a を組み合わせて表される。

(8) a-túnd-a　　ebíjánjáálo.
　S3SG-売る-BF　豆(8)
　「彼は豆を売る／売っている。」

なお、動詞-ŋwa 「来る」を用いた現在時制の形式と不定形の組み合わせで「たった今」という完了の意味を表すことができ、動詞-ja「来る」と不定形の組み合わせでは be going to～「～するつもり（近い未来)」という意味を現在形に付加して表すことができる。

(9) a-ø-ŋw-a　　hu-gul-a　　eŋombe.
　3SG-PRES-来る-BF　INF-買う-BF　牛
　「彼はたった今牛を買ったところだ。」

(10) a-ø-j-a　　hu-gul-a　　eŋombe.
　3SG-PRES-来る-BF　INF-買う-BF　牛
　「彼は牛を買うつもりだ。」

2.1.6 近未来

発話時にまだ起きていないことで、発話直後からその日のうちに起こることを表す。時制接辞 ná-と接続形語尾-e で表される。

(11) éguló hu-ná-som-e　　ehítáábó.
　夕方　1PL-F$_1$-読む-SBJF　本(8)
　「夕方、私たちは本を読むだろう。」

2.1.7 中未来

発話時にまだ起きていないことで、発話翌日以降の未来に起こることを表す。時制接辞 náhá -と接続形語尾-e で表される。

(12) ómwesi ogú-ja hu-náhá- som -e ehítáábó.
年(3) (3)-来る 1PL -F_2-読む-SBJF 本(8)
「来年私たちは本を読むだろう。」

近未来と中未来の用法を比較してみると、時間的な遠近で時制が決定されるだけでなく、動作が行われる可能性や確実性の高低も時制を決定する要素となっていることがわかる。たとえば、出来事が起こる可能性や確実性が高い場合には近未来時制で表される。以下に示す(13)a と(13)b の例文では、近未来の(13)a の例文の方が「ンバレに行く」という出来事が起こる可能性がより高いこと、もしくは、なんらかの状況や根拠から「ンバレに行く」ということがより確実であることを表している。

(13)a. ba-ná-tiin-e Mbale.
S1PL-F_1-行く-BF ンバレ(地名)
「彼らはンバレに行くだろう。」

(13)b. ba-náhá-tiin-e Mbale.
S1PL- F_2-行く-BF ンバレ(地名)
「彼らはンバレに行くだろう。」

2.1.8 遠過去の習慣

遠過去の習慣、繰り返し行われた動作、頻繁に起こったことなどを表す。2.1.1.でみた遠過去の形式に後語尾-nga を付加して表す。この形式は遠過去の習慣として表され、進行形は表さない。遠過去の進行形は次節 2.1.9.の昨日以前の過去進行形と同じ形式をとる。なお、現在の習慣は現在の形式、未来の習慣は中未来の進行形と同じ形式である。

(14) hu-á-emb-a-ngá.
1PL-P_2-歌う-BF-PROG
「昔私たちは歌った。」

2.1.9 昨日以前の過去進行形

発話の 2 日前以前の過去の時点で、動作、出来事が進行中であったことを表す。昨日以前の過去の形式に後語尾−nga を付加して表す。

(15) ómwesi ogó hu-á-som-ile-nga ehítáábó hinó.
月(3) あの(3) 1PL- P_2−読む-PF-PROG 本(7) この(7)
「先月私たちはこの本を読んでいた。」

2.1.10 昨日の過去進行形

発話前日のある時点で、動作、出来事が進行中であったことを表す。昨日の過去の形式に後語尾−nga を付加して表す。

(16) ejó hu-a-som-ile-nga éhitaabo hinó.
昨日 1PL- P_2−読む−F-PROG 本(7) この(7)
「昨日私たちはこの本を読んでいた。」

2.1.11 当日過去進行形

発話当日の過去のある時点で、動作、出来事が進行中であったことを表す。当日過去の形式に後語尾−nga を付加して表す。

(17) mú-mugamba hu-sóm-ílé-nga éhitabo hinó.
(18)-朝 1PL- 読む-PF-PROG 本(7) この(7)
「朝私たちはこの本を読んでいた。」

2.1.12 近未来進行形

発話時にまだ起きていないことで、発話の翌日に動作や出来事が進行中であることを表す。近未来の形式に後語尾−nga を付加して表す。

(18) égulo hu-ná-som-e-nga.

夕方 1PL- F_1–読む–SBJF-PROG

「夕方、私たちは読んでいるだろう。」

2.1.13 中未来進行形

発話時にまだ起きていないことで、発話の翌日以降に動作や出来事が進行中であることを表す。中未来の形式に後語尾–nga を付加して表す。なお、未来の習慣もこの形式で表される。

(19) ejó hu-náha-som-e-nga.

夕方 1PL-F_2–読む–SBJF-PRO

「夕方、私たちは読んでいるだろう。」

2.1.14 現在継続

過去のある時点に始まり発話の時点でも続いている行為や状態を表す。現在時制以外の時制の継続は複合形式で表される。

(20) hu-hí-sóm-a ébitaabo binó.

1SG-PERS-読む-BF 本(8) これらの

「私たちはまだこれらの本を読んでいます。」

2.2 複合形式

複合形式は 2 つの動詞からなる。前部要素と後部要素を組み合わせた形式で、前部要素ではテンスとアスペクトが表され、後部要素ではアスペクトが表される。前部要素の形式は、単純形式と同じで主語接辞、時制接辞、語尾が動詞と組み合わさったものであるが、動詞はコピュラ動詞が用いられる。コピュラ動詞は-li と-ba があり時制によって使い分けがなされる。後部要素は「完了」「進行」「継続」のアスペクトを表す。以下、それぞれの形式について例をあげながらみていく。表 5 はテンス・アスペクト表示の複合形式を表したものである。

表 5 テンス・アスペクト表示の複合形式

時制	前部要素	後部要素		
		完了	進行形	継続
昨日以前の過去	S-á-li	S-V-ile	S-li hu-V-a / S-V-a	S-hi-V-a-nga
昨日の過去	S-a-lí			
当日過去	S-ø-ba-ile		S-li hu-V-a	S-hi-V-a
現在	ø-			
近未来	S-na-ba-e			
中未来	S-naha-ba-e			
遠未来	S-li-ba		N/A	N/A

2.2.1 昨日以前の過去－完了

遠過去を表す前部要素と完了を表す後部要素を組み合わせた形式。発話の前日より前にすでに動作が完了していることを表す。前部要素は不変化形のコピュラ-li に主語接辞、遠過去時制接辞-á を組み合わせた形式である。

(21)a. ba-á-li　　ba-som-ile.
　　3PL -P_2-COP　　3PL-読む-PF
　　「彼らは読んでしまった。」

複合形式の否定形は、前部要素で否定辞 si-が前主語接辞として表れる。後部要素は前主語接辞 ni-によって導かれる。2.2.2 節以降に示す複合形式全てにおいて同じ形式がとられる。

(21)b. si-ba-á-li　　ni-ba-som-ile.
　　NEG-S3PL-P_2- COP　PreSM-3PL-読む- PF
　　「彼らはまだ読んでいなかった。」

2.2.2 昨日の過去－完了

遠過去を表す前部要素と完了を表す後部要素を組み合わせた形式。発話の前日の時

点ですでに動作が完了していることを表す。前部要素は、不変化形のコピュラ-li に主語接辞、近過去時制接辞- a を組み合わせた形式である。

(22) ba-a-lí　　ba-sóm-ilé.
　3PL-P_1-COP　3PL-読む- PF
　「彼らは読んでしまった。」

2.2.3 当日過去－完了

発話当日のうちに動作が完了したことを表す。この形式の前部要素は、コピュラ動詞-ba に主語接辞、現在の時制接辞 ø- 、基本語尾-a が付いた形式である。コピュラ動詞-ba は、コピュラ動詞-li が活用をしない不変化形であるのに対し、活用をすることができる。後部要素は完了形の形式が用いられる。

(23) a-ø-b-ilé　　a-sóm-ilé.
　3SG-PRES-COP-PF　3SG-読む-PF
　「彼は読んでしまった。」

2.2.4 近未来－完了

近未来を表す前部要素と完了を表す後部要素を組み合わせた形式。発話当日のある時点で動作が完了していることを表す。この形式の前部要素は、コピュラ動詞-ba に主語接辞、近未来の時制接辞-ná、接続形語尾-e が付いた形式である。

(24) ba-ná-b-é　　ba-sóm-ilé
　S3PL - F_1-COP-SBJF　S3PL-読む-PF
　「彼らはすでに読んでいるだろう」

2.2.5 中未来－完了

中未来を表す前部要素と完了を表す後部要素を組み合わせた形式。発話の翌日のある時点で動作が完了していることを表す。この形式の前部要素は、コピュラ動詞- ba に主語接辞、中未来の時制接辞- náhá、接続語尾-e が付いた形式である。

(25) ba-náha-b-é　　ba-sóm-ilé.

3PL-F_2-COP-SBJF　3PL-読む- PF

「彼らはすでに読んでいるだろう。」

2.2.6 遠未来－完了

遠未来を表す前部要素と完了を表す後部要素を組み合わせた形式。発話の翌日以降のある時点で動作が完了していることを表す。この形式の前部要素は、コピュラ動詞-ba に主語接辞、遠未来の時制接辞- li、基本語尾-a が付いた形式である。

(26) ba-li-b-a　　ba-sóm-ilé.

3PL-F_3-COP-BF　　3PL-読む- PF

「彼らはすでに読んでいるだろう。」

2.2.7 昨日以前の過去－進行形

遠過去を表す前部要素と進行を表す後部要素を組み合わせた形式。発話の 2 日前以前のある時点で動作、状態が進行中であったことを表す。昨日以前の過去と昨日の過去の複合形式については、後部要素に 2 つの形式が許容される。1 つ目の形式は、進行を表す後部要素に現在形が組み合わされた形式である。2 つ目の形式は主語接辞、遠過去の時制接辞、コピュラ-li を組み合わせたものに不定形が続く形式である。

(27)a. ba-á-lí　　bá-sóm-á.

3PL-P_3-li　　3PL-読む- a

「彼らは読んでいた。」

(27)b. ba-á-lí　　ba-li　　hu-som-a.

3PL-P_2-li　　3PL-COP　INF-読む-BF

「彼らは読んでいた。」

2.2.8 昨日の過去－進行形

昨日の過去を表す前部要素と進行を表す後部要素を組み合わせた形式。発話前日のある時点で動作、状態が進行中であったことを表す。前節の昨日以前の過去でみたよ

うに主語接辞、コピュラ-li と動詞語根に hu–、基本語尾-a の不定形を組み合わせた形式、もしくは主語接辞、時制接辞、語幹、語尾の形式が組み合わされる。

(28)a. ba-a-lí　　bá-sóm-á.
　　3PL-P-li　3PL-読む- a
　　「彼らは読んでいた。」
(28)b. ba-a-lí　　ba-li　　hu-som-a.
　　3PL-P_2-li　3PL-COP　INF-読む-BF
　　「彼らは読んでいた。」

2.2.9 当日過去－進行形

当日過去を表す前部要素と進行を表す後部要素を組み合わせた形式。後部要素は、不変化形のコピュラ-li に主語接辞をつけた形式に動詞語根、不定形接辞-hu、基本語尾-a をつけた形式が組み合わさってつくられる。発話当日に動作、出来事が進行中であったことを表す。

(29) mu-ø- b-ile　　mu-li　　hu-som-a.
　　2PL-PRES- COP- PF　S2PLCOP　INF-読む-BF
　　「あなたたちは読んでいた。」

2.2.10 現在－進行形

現在を表す無標の前部要素と進行を表す後部要素を組み合わせた形式。後部要素は、不変化形のコピュラ-li に主語接辞をつけた形式に動詞語根、不定形接辞-hu、基本語尾-a をつけた形式が組み合わさってつくられる。現在の進行している出来事や状態を表す。

(30) {ø}　　mu-ø-lí　　hú-sóm-á.
　　PRES　2PL- PRES-COP　INF-読む-BF
　　「あなたたちは読んでいる。」

2.2.11 近未来－進行形

近未来を表す前部要素と進行形を表す後部要素を組み合わせた形式。発話された時点でまだ起きていないことで、発話時直後からその当日の間に起こる出来事、状態が進行し続けることを表す。

(31) mu-ná-b-e　　mu-lí　　hú-som-á.
2PL- F_1-COP-SBJF　2PL-COP　INF-読む-BF
「あなたたちは読んでいるだろう。」

2.2.12 中未来－進行形

遠未来を表す前部要素と進行形を表す後部要素を組み合わせた形式。発話された時点でまだ起きていないことで、発話の翌日以降に起こる出来事、状態が進行し続けることを表す。

(32) mu-náha-b-e　　mu-lí　　hú-som-á.
2PL-F_2-COP- SBJF　　2PL-COP　INF-読む- BF
「あなたたちは読んでいるだろう。」

2.2.13 遠過去－継続

昨日以前を表す前部要素と継続を表す後部要素を組み合わせた形式。昨日以前に起こったことが昨日以前のある時点でも継続していたことを表す。継続を表す後部要素は動詞語根に継続を表す時制接辞 hi-、基本語尾-a、後語尾-nga が付く。

(33) bá-á-li　　ba-hí-sóm-á-ngá.
3PL-P_2-COP　　3Pl- PERS-読む- BF- PROG
「彼らはまだ読んでいた。」

2.2.14 昨日の過去－継続

昨日の過去を表す前部要素と継続を表す後部要素を組みわせた形式。発話前日に起こったことが発話前日のある時点でも継続していたことを表す。継続を表す後部要素

は動詞語根に継続を表すテンス・アスペクト標識 hi-、基本語尾-a がついた形式で、それに後語尾-nga が付く。

(34) bá-a-li　　ba-hí-sóm-á-ngá.
　　3PL-P_1-COP　　3PL-PERS-読む-BF- PROG
　　「彼らはまだ読んでいた。」

2.2.15 当日過去－継続

当日過去を表す前部要素と継続を表す後部要素を組み合わせた形式。過去に起こったことが発話当日に継続していた出来事、状態を表す。後部要素は動詞語根に継続を表す時制接辞 hi-、基本語尾-a がついた形式で表れる。

(35) mu-ø-b-ile　　mu-hí-sóm-á.
　　2PL-PRES-COP-PF　2PL-PERS-読む-BF
　　「あなたたちは読んでいた。」

2.2.16 近未来－継続

近未来を表す前部要素と継続を表す後部要素を組み合わせた形式。発話時直後からその当日のある時点で動作、状態が継続していることを表す。後部要素は、動詞に語根に継続をあらわす時制接辞 hi-、基本語尾-a が付いて表される。

(36) mu-ná-b-e　　mu-hí-sóm-á.
　　2PL-F_1-COP-SBJF　2PL-PERS-読む- BF
　　「あなたたちはまだ読んでいるだろう。」

2.2.17 中未来－継続

遠未来を表す前部要素と継続を表す後部要素を組み合わせた形式。発話の翌日以降のある時点で動作、状態が継続していることを表す。後部要素は、動詞に語根に継続をあらわす時制接辞標識 hi-、基本語尾-a が付いて表される。

(37) mu-náhá-b-e　　mu-hí-sóm-á.
　2PL-F_2-COP-SBJF　　2PL-PERS-読む- BF
　「あなたたちはまだ読んでいるだろう。」

3. まとめ

以上、ニョレ語のテンス・アスペクトの形式について例を挙げながらみてきた。単純形式は、1 つの動詞でテンス・アスペクトの両方を示すが、この形式が強調して表したい点は動作そのものがいつ行われたのか、動作が完了しているか未完了であるかということであると考えられる。現在時制のように発話者、聞き手の両方にとって時制が明らかである場合は時制が無標で表され、動作が完了しているか否かが語尾で決定される。

二つの動詞でテンス・アスペクトが表される複合形式では、コピュラ動詞を伴う前部要素が主にテンスを表し、主要動詞語幹をもつ後部要素がアスペクトを表している。後部要素の完了のアスペクトは全てのテンスにおいて同じ形式をとっているが、進行形と継続のアスペクトについては過去時制のみ現在、未来時制と異なった形をとる。また、前部要素で用いられるコピュラ動詞についても過去形のみ不変化形の-li を用い、現在、未来時制は活用をすることができる-ba を用いる。また、この形式でみた進行形を表す不定形を用いる形式は、より生産的に他の動詞と組み合わさることができる。

なお複合形式の現在進行形の例をみると、この形式でも現在時制が無標となって表されていることがわかる。単純形式では現在時制接辞が無標となって表れるが、複合形式では、テンスを表す前部要素全体が無標となって表れている。このように現在時制は特に言明する必要のない時制として無標で表され、アスペクトがより重要な要素として表されているといえる。

cf.　(30) {ø}　　mu-ø-lí　　hú-sóm-á.
　PRES　2PL- PRES-COP　INF-読む-BF
　「あなたたちは読んでいる。」

以上、本稿ではニョレ語のテンス・アスペクトの形式について論じてきた。それぞれのテンス・アスペクト形式について例文を提示しながら分析を行ったが、データが

不足している点も含め、さらなる調査と分析が必要な点も多く残っている。特に、単純形式と複合形式の使い分けや機能、時制接辞とその他の接辞の共起、その制限については今後、さらなる調査、分析が必要である。また、動詞語根の種類によってどのような使い分け、制限があるのかという点も今後の課題となる。先行研究との比較研究も含め、以上の課題点を視野に入れてさらに調査と分析を進めていきたい。

参考文献

Douglas Allen Wicks. (2006) *A Partial Grammar Sketch of Lunyole with Emphasis on the Applicative Construction(s)*, Master thesis, Biola University.

Nurse, D. (2008). *Tense and Aspect in Bantu*. Oxford University Press.

Wandera, E. (2004). *Tense, Aspect and Mood in Lunyole Grammar and Narrative Discourse.* Master thesis, Nairobi Evangelical Graduate School of Theology, Nairobi.

http://www.ethnologue.com/language/nuj（last referred 30/OCT/2014）